飢餓対策 NEWS　第 275 号　発行日 2013 年 5 月 20 日（毎月 20 日発行）定価 15 円

日本国際飢餓対策機構（Japan International Food for the Hungry：略して JIFH）は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合（Food for the Hungry International Federation）の一員として、20 ヶ国 60 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える働きをしています。

お父さんに愛をこめて “父の日プレゼント” を

6月の「父の日」に、ありがとうの一言を添えておいしいコーヒーとストラップの贈り物を。いつでも食べられる缶詰パンとのお得なセットでお届けします。

通常価格より約五百円もお得。売り上げの一部は活動支援に！

【セット価格 3,000 円（本州のみ送料無料）】
- ■モカ･レギュラーコーヒー [粉 200g× 2袋]
- ■パンの缶詰 (パン･アキモト製) 3缶 (3種)
- ■ POLOS ストラップ 2 点（デザインお任せ）

（先様へ直接発送をご希望の方は、請求書の送付先をお知らせください）
- ■先着 20名様に ㈱中京医薬品デイズケアセット（爪切り、毛穴ケア等) を進呈。

●お求め、お問い合わせ（ウエブからも OK）
㈱キングダムビジネス
FAX兼用電話 072-940-6814／ 6824
＊ https://www.kbwin-win.org/

海外キャンプ参加者募集 !!

貧困問題の学びとボランティアワーク

●マレーシア　ワークキャンプ
日程: 7 月 31日㈬～8 月 10日㈯
費用: 17万 8千円　募集: 12名

●ボリビア　ワークキャンプ　締切迫る
日程: 8 月 16日㈮～ 28日㈬
費用: 33万 8千円　募集: 10名

6月中旬締切、申込みは東京事務所まで。

ハンガーゼロ・ファシリテーター・トレーニング

海外で活動をめざす方の特別な学習です。ぜひご参加ください。
日程: 7 月 29日㈪～8月 2 日㈮
会場: グレース宣教会　紀勢チャペル
三重県度会郡大紀町崎 1362
費用: 2万9千円　募集: 10名
申込みは大阪事務所まで。

ハンガーゼロ・サポーター大募集中！

今すぐ ▶▶▶ 各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- □ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
  毎月（　　）口　（1口 1,000 円）
- □ チャイルド・サポーター（世界里親会）になりたいので説明書（申込書）を送ってください。
- □ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
  毎月（　　）口　（1口 1,000 円）
- □ JIFH（日本国際飢餓対策機構）サポーターとして協力します。
  毎月（　　）口　（1口 500 円）
- □ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- □ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名：　　男・女

〒
フリガナ
住所：

（電話）
▼申込日：　　年　月　日▼

FAX・072-920-2155

ハンガーゼロ・サポーター 2766口。ぜひあなたのお知り合いにもお知らせください。

2013「世界食料デー」テーマ決定！

2013年世界食料デーのテーマは
「世界を変える希望のために」

飢餓の子どもたちをなくす、教育支援をする、そのことによって希望をもって地域を変え世界を変える子どもを応援しましょう。

♬フィリピン・ホープ児童合唱団 15年ぶりに来日♪

ホープ児童合唱団は、フィリピンのスラムで暮らす子どもたちの情操教育の一環として日本国際飢餓対策機構の支援によって結成されました。

大半の子どもたちが世界里親会の里子としてチャイルド・サポーターの励ましを受けて学校に通っています。

10月 3日から 21日までの来日に向けて、今一生懸命練習中。

日程など詳細が決まりましたらお知らせしますので、お楽しみに！

■発 行 者　岩橋竜介
■発 行 所　一般財団法人　日本国際飢餓対策機構
いいね大募集　Webサイトアドレス http://www.jifh.org/
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック https://www.facebook.com/hungerzero
■募金方法　※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウエブサイトで
身近に便利になりました
●郵便振替　00170-9-68590 ／日本国際飢餓対策機構
●他の金融機関からの自動振替●クレジット、デジタルコンビニ

大　阪　〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072)920-2225　FAX (072)920-2155
東　京　〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル 517 号室
TEL (03)3518-0781　FAX (03)3518-0782
愛　知　〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F
TEL (052)731-8111　FAX (052)731-8114
広　島　〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLC ブックス 2F
TEL (082)546-9036　FAX (082)546-9037
沖　縄　〒901-0156 那覇市田原3-8-1 ユリ香ハウス 201号
TEL (098)859-4585　FAX (098)859-4540
東　北　〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6エマオ2階E
TEL (022)217-4611　FAX (022)217-6651

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所（八尾市）、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さっています。

日本国際飢餓対策機構　2013 No.275　6

飢餓対策News

分かち合う幸せ

先日某テーマパークで、ある学生たちがルールを無視して迷惑行為をし、さらにそれを「偉業」としてインターネットの交流サイトで紹介していました。悪ふざけの域を通り越し、自分が面白ければいいという、独りよがりの自己中心主義であり、誤った個人主義のなれの果てだと言えるでしょう。

このような若者と話しをしていて、よく使う言葉は「不公平」「平等」「権利」という言葉です。彼らにとってはこれらの言葉はあくまで答案に書くような知識であって、決して自分の人生や生活という土壌から芽生えてくる知恵ではありません。だから平等という時、それは平等に受けること、権利を語る時、各人がまず果たすべき義務や責任は除外され、共生社会などという文言は知っていても、そのために必要な犠牲は忘れ去られているのです。

受けることのみを権利と考え、その権利を行使することが公平で平等の社会が生まれるという幻想をいつまで持ち続けるのでしょうか。真の平等とは、平等に受ける権利の主張ではなく、平等に分かち合い、支えあう愛を実行することです。この覚悟が個人個人に生まれてくる時に、この国に、そして世界に共生社会が生まれてくるのです。

以前フィリピン･マニラ郊外の町パヤタスの「プレイズエメラルド国際学校」を訪問しました。極貧の家庭からくる子どもたちが、昼食の一杯目をついでもらい、おいしそうに食べ、その後二杯目もついでもらいました。しかし、何人かの子を見ていると一向に食べません。なぜなのかと創立者に聞くと、「家にいる幼い妹や弟に分けてあげる」ということ。自分ひとりが満腹することに幸せがあるのではなく、僅かでも分かち合う時に、他の人が幸せになるという共生社会の原則をこの子どもたちは知っているのです。単なる知識ではない、ゴミと貧困の土壌から生まれてきた知恵なのです。そしてその姿が豊かに見えました。確かに貧しさは改善されるべきです。しかし飽食と自己中心の、豊かさに慣れてしまった今の日本の冷えた社会を見る時に、我が国もかつてそうであったように、満たされることだけに幸せがあるのではないことを改めて覚えたのでした。

イエス･キリストは「受けるよりも、与える方が幸い」だと語り、実践しました。各人がまずこの幸せな共生社会の基礎である「与える愛」を実行する時に、僅かだと感じても、自分の持てるものを分かち合うことができるようになるのです。自分のお腹はいっぱいにはならなくても、それで誰かが支えられることを喜ぶことができるようになるのです。それを幸せだと思える社会が生まれるところに希望があります。その希望は、まず自分から始まることを決して忘れないでください。

日本国際飢餓対策機構　理事長　岩橋竜介

1 分間に 17 人（うち 12 人が子ども）･1 日に 2 万 5 千人･1 年間では約 1,000 万人が、飢えのために生命を失っています。

大久保愛美さんの
シープケアセンター
ボランティア日記

子どもたちのさまざまな悲しい現実に胸が痛みます

子どもの保護者から喜びの声

ケニアに来て半年が経ちました。今まで守られ、また私の想像をはるかに超えた大きな恵みが与えられていることを心から感謝します。またケニアで日本国際飢餓対策機構が行っている給食支援や里親さんの励ましが、どれほど多くの人々に希望を与えているかを知ることが出来て本当に感謝です。

シープケアの給食が一日の唯一の食べ物という子どもたちは、毎日喜んで給食を食べています。先日保護者の集まりがあり、多くの保護者が世界里親会の支援を通して子どもが学校に行けるだけではなく、家族を助けてくれていると喜んで話してくれました。

保護者の集まりの様子

●4月14日

今週は、ひとりの高校生と話をする機会が与えられました。彼は幼い時に両親を亡くし、お姉さんに育てられましたが、彼女が結婚してからは自分で仕事をしてお金を貯め、24歳でやっと高校４年生になりました。学校に行きながら働くことが難しいのでお金はほとんどなく、去年から朝ご飯も夜ご飯も食べていなくて、学校で食べる給食のみで過ごしているということです。彼はまた色んな悩みや現状、その中にあって神様が多くの恵みを与えて下さっていることを分かち合ってくれました。

●3月24日

今日は礼拝の後にグループに分かれて、ケニアの家庭の現状について話し合いました。ケニアはシングルマザーが多く、また再婚する人も多いですが、再婚相手の子どもを愛することが出来ず食事を与えなかったり、子どもを家で寝させなかったりするそうです。

そんな子どもは毎日学校が終わると家に荷物だけ置いて外に出て、道や空き地で寝ているという話や、シープケア学校の子どもの中でも母親が実の子どもの学費は払うけれど、夫の連れ子の学費は払わず、その子は学校を辞めて毎日道で座って一日を過ごしているという話、また親に見捨てられてストリートチルドレンになる子どもが多いことなどを聞き、悲しい現状を知って胸が痛くなりました。

すべてを感謝して歩む姿

ケニアの子どもたちの現状は深刻です。しかし、私はケニアの人たちを通して“感謝する心“を教えられています。

物が与えられた時だけ感謝するのではなく、今日食べる物がなくても今日という日を与えてくださったことを感謝する姿。何かが与えられた時は喜んで他の人にも分け与える姿。

子どもたちが学校に行けることを感謝して一生懸命勉強する姿。すべてを当たり前と思わず、全てを神様に感謝して歩む姿は本当に輝いています。

神様は一人一人の子どもたちを愛して共にいてくださる。ケニアの子どもたちが神様の愛に守られて成長していけるように祈り続けたいと思います。

●チャイルドサポーターになりませんか！　毎月 4,000 円で一人の里子を応援することができます。世界里親会まで。

パキスタン・パンジャブ州　シャー・ワラ村　自立支援プログラム

職業訓練
収入機会のない女性に

当機構は2012年11月から、パキスタンのパンジャブ州バシーラ地区にあるシャー・ワラ村で教育をベースとした自立支援プログラムを始めました。人々が自分たちの生活上の問題を見つけ、解決するための過程を支援しています。

サージダさんと水上さん㊨

●●パキスタン・ウイメンズ・クリスチャンホスピタル　スタッフ　水上京美●●

シャー・ワラ村の15歳以上の識字率は約20%、労働者の60%は日雇いです。衛生状態は悪く、トイレの普及率は約25%です。この地区は2010年の洪水で大きな被害を受けた地域の一つです。この時の緊急支援を機に私が所属する教会と病院がこの地域と交流を持つようになりました。

まずは９回の地域のリーダー教育から始めました。内容は「自立した地域活動とは」、「リーダーシップ」、「問題を解決する為のプロセス」などです。その後リーダーの間で話しあった結果、収入を得る機会がほとんどない女性の為に、職業訓練を始めようということになりました。

リーダーの一人であるサージダさん（女性）が自分の敷地にある小屋を修理し、場所を提供してくれました。そして今年の５月から、自ら無償で女性たちに裁縫と刺繍の技術を教えています。今後の課題は、学んだ女性たちが継続的に収入を得ることができるよう、仕事をつくることです。彼女たちは、プログラムを通して得た収入の５%を集め、村の為に使いたいと考えています。

また、この村の約15人のボランティアを対象に保健・衛生教育と聖書をベースにしたモラル教育を2013年2月から始めました。彼らは学びつつ家々を訪問し、自分たちが学んだことを、他の人達へ伝えています。

ミシンを使って縫製を学ぶ村の女性たち

できることから始めながら

ここまで来るまでに、難しい事もありました。2010年の洪水を機に、沢山の組織がパキスタン内外からやって来て被災地の支援を行いました。それは必要な事だったのですが、その結果、緊急時を過ぎた今でも外部の人間を見ると、何かを無償で得ることができると期待する人が非常に多くなりました。シャー・ワラ村でも、私たちが学校や職業訓練施設を建てるなど様々な憶測があり、リーダー研修に参加するとお金がもらえると考えていた人たちもいたようです。自分たちの地域の為に、できることから始める。協力し合って働く、という考え方が村全体に定着するまでには、時間が必要だと思います。

この地区はイスラム教徒の人達が暮らす地域で、私たちはこの働きを通して彼らと良い関係を築き、彼らの生活を具体的に支援しながら、神の愛を分かち合いたいと願っています。

世界里親会

ボリビア 貧しさの中で懸命に生きる子どもたち

世界里親会が支援活動を行っているボリビアの2地域のうち、リオカイネから里子の一日の生活をご紹介します。

イスマエル君の里親さんから

私たち中学３年生43名は、グループで里親になってイスマエル君を支援しています。2012年5月に授業で、開発途上国の子どもたちが過酷な労働に従事していることを学んだことがきっかけです。「イスマエル君、いろいろたいへんだと思うけど勉強もスポーツも頑張ってね！」

ミゲリナちゃん

イスマエルくん

当機構の里子ミゲリナ･ナバロ ・デルガディリョちゃん（11歳・６年生）とイスマエルくん（９歳・４年生）の姉弟はフロ･チコ学校で勉強しています。2人は世話をしてくれているおばあちゃん（60歳位）を“お母さん“と慕い、1年のほとんどをおばあちゃんと従弟のペドロくん（12歳）と一緒に生活しています。

母親は２人が３歳と１歳の時に病死しました。父親はまもなく家を出て再婚し、今は月に１回程度訪ねてきます。いくらかの食べ物や服、学用品などを持って来る時もありますが、それだけではとても毎日の生活には足りません。それでおじいちゃんと従弟のペドロ君の母親（シングルマザー）が、別の村で住み込み小作農としてジャガイモ、とうもろこし、さつまいもの畑で働いています。

レモン貯蔵部屋を間借り

一家は18匹のヤギを飼っています。時には売ることもありますが、主に食糧用でこれが唯一の財産です。自分たちの家や土地を持っていないので、今はレモン農家のご好意によりレモンの貯蔵部屋の中に住まわせてもらっています。6～７畳くらいの土レンガの一室にベッドが一つあるだけですので、土の床の上にも布を敷いて寝なくてはなりません。テーブルも椅子もありません。レモンの収穫が多い時には部屋の半分くらいがレモンに埋め尽くされます。狭い室内で薪やプロパンガスを使って調理するので健康にもよくありません。レモン農家の方がやはりご好意で「レモン貯蔵部屋のすぐ近くの所有地を貸すので、住む部屋を建てていいよ」と言って下さっていますが、家を建てることは経済的に難しい状態です。そのような状況でも、２人は明るく前向きに生きています。

食糧用に飼っているヤギ、売ることもあります

レモン貯蔵部屋　でおばあちゃんと暮らしています

リオカイネ地区：都市コチャバンバから135㎞、車で4時間半（公共バスで約6時間）のところに位置します。標高は1,800mありますが気候は温暖です。ここの人々はケチュア語と公用語のスペイン語を話します。

下校後はレモン農家で働く

２人は朝６時に起きます。朝食は紅茶かアピ（紫とうもろこしの温かい飲み物）とパン1個です。給食は正午過ぎからでメニューは日によって違います。２人とも給食をとても楽しみにしています。学校は朝８時半からで、午後２時20分に終わって３時半頃帰宅すると、まず４人一緒に徒歩で20分ほどの用水路に水を汲みに行きます。それから週に３～５日は午後５時か６時位までおばあちゃんと共にレモンの収穫の仕事をします（土･日曜日は朝7時から午後6時まで働きます）。２人はその合間に従弟やレモン農家のお友だちと一緒に、レモンを運搬する古いトラックの荷台に乗ったり、おいかけっこをしたりして遊ぶのが好きです。時には賃金の代わりにジャガイモ、さつまいもやとうもろこしを受け取ることもあります。

レモン畑での仕事が終わると夕食をいただきます。電気は無いので、夜にろうそくの明かりで宿題をして就寝は10時半前後です。

子どもたちの夢を現実に！

２人とも学校へ行くのが大好きです。好きなことも共通しています。それは算数とサッカーをすることです。ミゲリナちゃんの将来の夢は高校の数学の先生になること。イスマエル君は「警察官になりたい！」と、即座に元気よく答えてくれました。

この姉弟をはじめ、この地域の子どもたちが今後の人生を夢と希望をもって明るく一生懸命生きていけるように、また神様の祝福と周囲の人々の励ましの手が豊かに伸べられますように、そして私たち現地スタッフが彼らのために何ができるのかを祈りつつ考え、実行していけるよう願っています。そのためには皆様のご支援とご協力が必要です。どうぞよろしくお願いいたします。

（報告：ボリビア駐在・小西小百合）

里子たちのごはん

朝食 パンとアピ（紫トウモロコシの粉と砂糖、シナモンを煮た温かい飲み物。黄色いトウモロコシを用いたものもある。）

給食 アピとブニュエロ（ボリビアのドーナツ、穴をあけずに手で広げて油で揚げたもの）、レンズ豆とご飯、ミルクココア、麦と野菜のスープ

夕食 たいていはご飯やジャガイモをゆでたもの、スープ（ジャガイモと人参）、またはマカロニやジャガイモに自家製のやぎのチーズ、またはヤギの肉一切れが添えられたもの。

●ボリビアの子どもたちのチャイルド・サポーターを募集しています。里子一人につき毎月 4,000 円。ウエブサイトからお申し込みの場合は、クレジットカードがご利用になれます。資料請求は 8 頁から。大阪事務所　世界里親会 Tel.072(920)2225

紛争に苦しむ人々 ①

コンゴ民主共和国

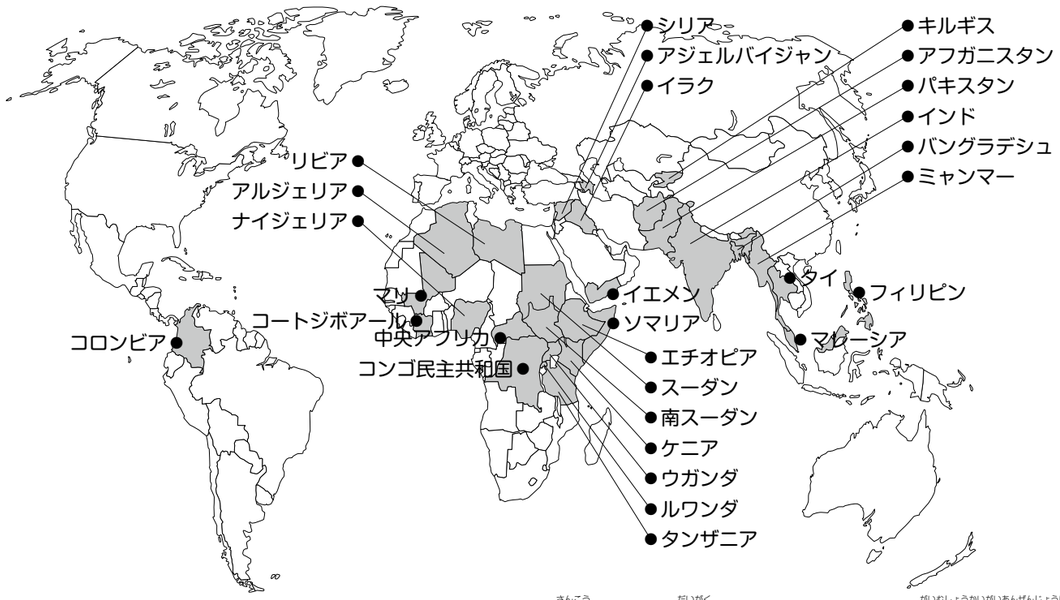
え／みなみななみ

争いが引き起こす飢餓

なぜ飢餓を終わらせる必要があるの

世界では今も各地で紛争が起こっています。紛争によって死亡する人の数はアフリカが全体の88％をしめています。現在は、同じ国の中の異なる民族、人種、宗教などを火種とする武力紛争が多く、紛争の背後には工業先進国が控えている場合がしばしばです。

紛争が起こっている国は (2013年)



参考：ウプサラ大学（スウェーデン）データ／外務省海外安全情報

紛争は多くの人々の生活を破壊します。闘いで家族を失ったり傷ついたりするだけではなく、住み慣れた家や長年耕してきた農地を手放し、避難生活を強いられます。ようやく争いが終わってふるさとに戻れたとしても、農地は荒れ果て、残された人で再び農作物を収穫できるようになるには、何年もかかることが多いのです。当然その間食料は不足します。

2012年に紛争のためにふるさとを追われた人々の数は、4,250万人に及びます。

こうして争いは飢えを引き起こし、人々を長期間にわたって苦しめる原因となるのです。